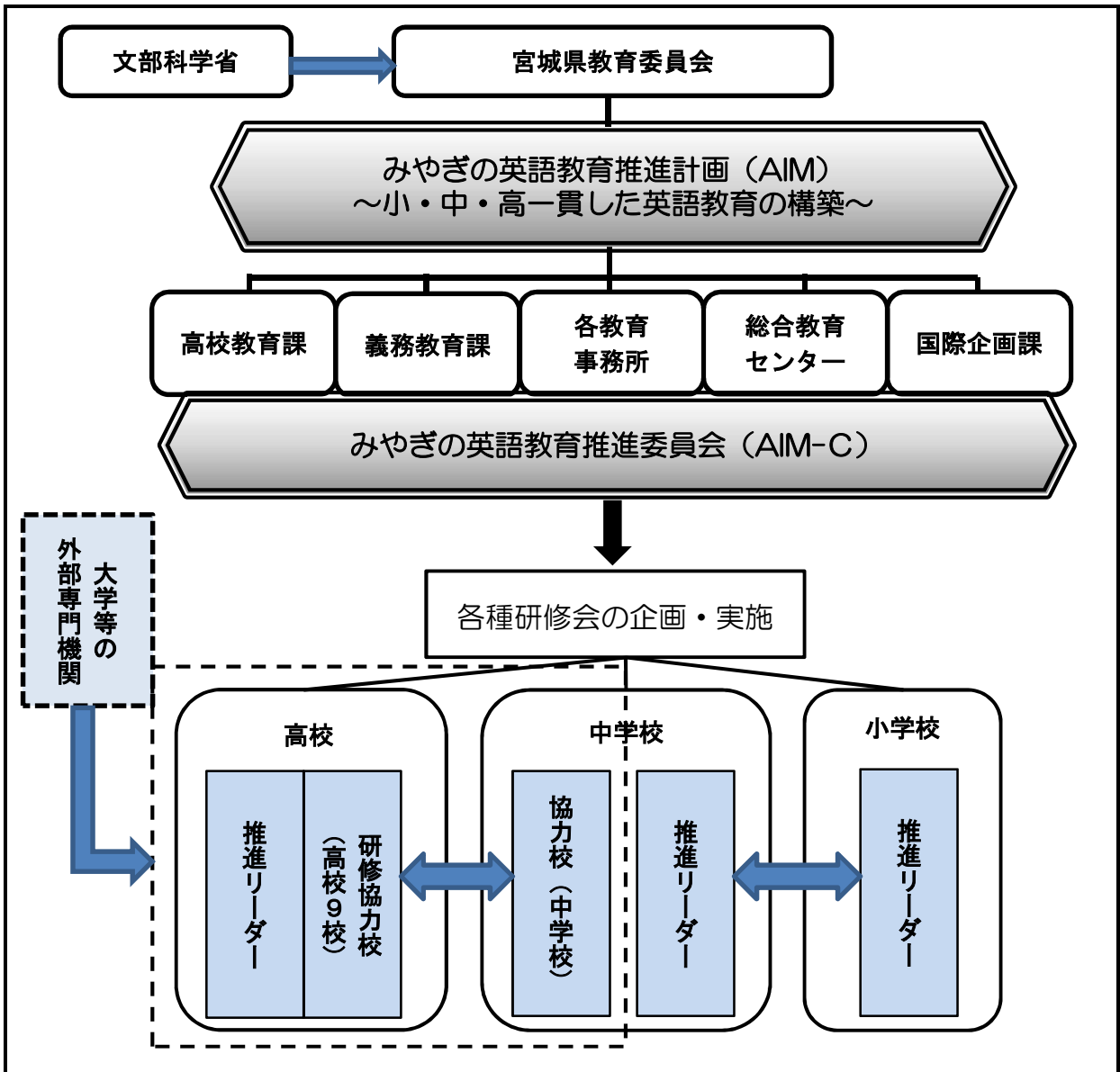


# 宮城県英語教育改善プラン

## 実施内容

## (1) 研修体制の概要



## (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

## 【義務教育課程】

## ① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

平成28年度の中学校における英検準1級相当以上の資格を有する教員の割合は26.6%であり、県の目標を下回った。平成29年度は、指導者が英語力を向上させ、生徒が英語に触れる機会を多く提供する必要性について研修会や学校訪問等を通じて啓発する。また、市町村教育委員会と連携しながら外部検定試験についても広く周知する。

小学校においては、教員自身が英語を使用することへの苦手意識や不安を抱えている割合が高いと感じられる。そこで、研修会や指導主事学校訪問等を通じて、教科化に向けた指導内容の周知と共に、教室で使用するクラスルームイングリッシュの語彙を増加させたり、ALTの効果的活用方法等を具体的に提示したりしながら支援する。

## ② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合（中学校第3学年）

英検3級相当以上の資格を有すると思われる生徒の割合は36.4%であり、平成27年度の結果から4.4ポイント上昇した。生徒の英語力を高めるためには、英語に関する興味・関心を高め、生徒が主体的に英語を学習したいという意欲を高めることが必要である。そのため

に、平成29年度は、県内中学校2年生を対象とした「英語能力測定テスト」の実施やインターネットを活用して児童生徒が英語で情報発信できる機会の提供等を行い、生徒の主体的な学びを促す。

③ 「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

平成26年度から平成28年度までの3年間で5回の「CAN-DO リスト研修会」を実施した。その成果もあり、設定率は100%となった。また、教員による達成状況の把握も平成27年度の32%から75.5%へ上昇した。平成29年度については、リストの見直しとリストの効果的な活用、公表の必要性等について研修会や指導主事学校訪問等で周知する。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

生徒の英語による言語活動時間の占める割合は、71.6%であり、平成27年度の68.0%から3.6ポイント上昇した。県の目標値は達成しているものの、英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を伸ばさせる観点から、平成29年度は、4領域にわたり、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの学習活動や、文法事項等の言語材料について理解したり練習したりする学習活動を充実させる必要性について、研修会や指導主事訪問等で周知する。

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステスト実施状況

平成28年度は、「話すこと」「書くこと」共に、パフォーマンステストの実施状況は県の目標を下回った。コミュニケーション能力を向上させるためにはパフォーマンステストは不可欠であるため、選択形式等の筆記テストだけでなく、面接、英作文、スピーチなどの重要性について周知すると共に、「英語を使って何ができるか」を明確にした目標設定の在り方について研修会や指導主事学校訪問等で周知する。

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

平成28年度の授業における英語担当教員の英語使用状況は58.8%と平成27年度から2.8ポイント上昇したが、県の目標値には達していない。英語担当教員が、英語使用者及び英語学習のモデルであるという意識を高め、生徒の実態に応じた英語を多用し授業を行うことで、生徒が英語に触れる機会が増え、英語による言語活動が充実することについて研修会や指導主事学校訪問等で周知する。

【高等学校課程】

① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

英検準1級相当以上の資格を有する教員の割合は50.5%であり、過去3年と比較しても、教員の資格取得率は伸びている。平成29年度の目標値が75%であることから、更に取得率を伸ばすためには、研修会等を通し自身の英語力の向上が指導力の向上に繋がることを啓発するとともに、受験割引制度等についても広く周知する。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合（高等学校第3学年）

英検準2級相当以上の資格を有すると思われる生徒の割合は28.1%である。平成27年度の結果から2.3ポイントの減少となり、目標値の40%に届かなかった。生徒の英語力の向上のために授業改善が急務である。まずは、生徒の英語力の現状を把握し、CAN-DO リストの到達目標、単元内容、評価までを一体化した授業構成を意識した授業づくりを学べる研修会を開催する。特に評価においては、研修協力校を中心にパフォーマンス評価の在り方についての研究を進め、4技能をバランス良く指導・評価する授業展開を公開授業等でモデルとして示す。

③ 「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

平成28年度は全ての高等学校において「CAN-DO リスト」の提出を求めたこともあり、設定の割合は100%となった。しかしながら、公表している割合は31.9%であり、目標の90%を大きく下回っている。達成状況の把握は平成27年度から7.7ポイント増加したものの、同様に目標には届いていない。設定したものの活用の仕方において課題が見られるため、うまく活用している学校の事例等を研修会で紹介する。また、指導主事訪問等の機会を捉えて

学校毎に指導する。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

いずれの科目においても学年が上がるにつれて生徒の英語による言語活動時間の占める割合が減少している。「学んだことをいかに使うか」という授業づくりの視点から、更に生徒の言語活動の時間が伸びるよう、研修協力校における授業をモデルとして公開する。また、適切に観点別評価を行うことが生徒主体の授業になり、生徒の活発な言語活動に繋がるということを研修会や指導主事訪問等を活用して啓発する。

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステスト実施状況

生徒の英語力を適切に評価するためにパフォーマンステストの実施は必須であることから、それぞれの教員がその必要性を理解し、各学校の年間指導計画に明記し、最低でも各学期に1回の実施を定着させるために、研修会等において周知徹底する。また、上記②でも述べたように、評価のノウハウに関して研修協力校での取組を伝達する。

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

約半数の教員が英語を使用して授業を行っているが、更に割合を伸ばすためには、教員が生徒の英語力に合わせたレベルの英語を使用することによって、生徒の英語力も向上することを理解すること、また、授業を生徒が英語を使用する場として設定することについて、英語教育推進リーダーによる研修を通して実感させ、他の教員ともその有用性を共有させる。

⑦ 研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

英語教育推進リーダーによる研修会については、平成29年度で4回目となり、今年度も3回にわたり実施する予定である。各学校から1名以上の参加を見込んでいる。参加者は勤務校において伝達講習を行うこととしている。研修協力校においては、授業公開等の研修会の開催と外部専門機関と連携した講演会等を開催することとしている。

(3) 研修の体系と内容の具体

○研修の体系

平成29年度は、小・中・高一貫した「みやぎの英語教育推進計画」(Advancement of Interconnection for English Education in Miyagi) (通称 AIM)を策定する。その目的は、進学のためだけの英語教育ではなく、「英語を使って何ができるようになるか」を考え行動できるグローバル人材の育成を目指すことにある。そのために、本県の英語教育に関わる義務教育課、高校教育課、国際企画課、総合教育センター、各教育事務所が連携し、「みやぎの英語教育推進委員会(通称 AIM-C)」を組織化し、今後の宮城県における英語教育の方向性を決定し共有する。具体的には、新学習指導要領の内容を見据え、小・中・高における本県の英語教育の課題共有からの授業改善方法、研修の在り方、英語能力測定テストの導入とその活用方法、インターネットを活用して児童生徒が英語で情報発信できる機会の提供など、本県の児童生徒が積極的に英語を使おうとする意欲を高めるような取組について検討する。

○研修の具体

小・中・高一貫した英語教育を推進するために、研修内容を明確にした上で、参加者の校種を限定せず実施する。

【義務教育課程(小学校)】

① 「外国語活動指導力向上研修会」

国の中央研修を受講した英語教育推進リーダーを講師とした研修を通して、学習指導要領及び新しい外国語教育の在り方の趣旨に沿った指導や評価を実現できるようになることを目指し、外国語教育の充実を図る。

② 「小学校外国語活動研修会」

大学教授による講義、外国語活動の取組事例の紹介やマイクロティーチングを通して、外国語活動の指導力を向上させると共に、中学校への接続を踏まえた指導の在り方について研修を行う。

**【義務教育課程（中学校）】**

① 「英語指導力向上研修会」

国の中央研修を受講した英語教育推進リーダーを講師とした研修を通して、学習指導要領及び新しい英語教育の在り方の趣旨に沿った指導や評価を実現できるようになることを目指し、英語教育の充実を図る。

② 「英検 I B A 研修会」

生徒の学びの主体性を高めることを目的に、県内全中学校2学年を対象に「英語能力測定テスト」を実施する。併せてその前後に、教員を対象とした研修会を実施する。研修会では、実施の意義について理解を促すと共に、測定結果の効果的な活用方法について研修することで、日々の授業内容の見直しや指導力向上を目指す。

③ 「中学校、高等学校英語科研修会」

中学校・高等学校の円滑な接続を意識した4技能をバランスよく高める言語活動と、その評価の在り方について理解を深めるとともに、指導法や授業づくりの演習等を通して指導力の向上を図る。

**【高等学校課程】**

① 「英語担当教員指導力向上研修会」

国の中央研修を受講した英語教育推進リーダーを講師とした研修を通して、学習指導要領及び新しい英語教育の在り方の趣旨に沿った指導や評価を実現できるようになることを目指し、英語教育の充実を図る。平成29年度で4回目の実施となる。今回も推進リーダーの他に平成28年度の推進リーダーをアドバイザーとして参加させることで、参加教員に対しより細やかに指導する。

② 「研修協力校による研修会及び講演会」

それぞれの研修協力校が「CAN-DO リスト」を活用した授業改善、「4技能5領域におけるバランスの良い授業内容と評価の研究」、「ICT 機器を活用した授業研究」の3つの大きなテーマに沿った課題研究を行う。平成29年度はより研究を深化させるために、地域の中学校（協力校）と連携することにより、自校における課題を明確化し、授業改善に反映させる。各校においては研修会を行い、近隣の小・中・高等学校へその研究の成果を広く波及させることが目的である。また、その研究については、大学等の外部専門機関と連携し、専門的な見地からのアドバイスの下行うこととする。更には、それぞれの学校の課題に則して、大学教授等による講演会を開催する。

○ 研修の評価方法

各研修会に参加した教員を対象としたアンケートの共通項目を取り入れ、研修の満足度や課題等について具体的な内容ごと評価することで、次年度以降の研修会の参考にする。

○ 宮城県教育委員会と外部専門機関及び研修協力校等との関わり方等

研修協力校の研究に関わった外部専門機関とは、研修会時のみならず、継続して指導助言をいただけるよう連携を図る。研修協力校と中学校の協力校については、県教育委員会主催による連絡協議会を開催し、域内及び各校の課題等について協議及び情報共有を行う。また、担当指導主事は各校の研修に参加し指導助言を行うとともに、日頃より連絡を密にし、研修協力校における指導改善を図る。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	第1回 AIM 協議会	

5月	<p>【高等学校】第1回連絡協議会 第2回 AIM 協議会 【中学校】生徒の英語力向上事業 第1回英検 IBA 研修会 【小学校, 中学校】第1回小・中連携英語教育推進事業協議会</p>	
6月	<p>【小学校】小学校外国語活動研修会 【中学校, 高等学校】中学校・高等学校英語科研修会 【高等学校】第2回連絡協議会</p>	
7月	<p>【小学校】第1回外国語活動指導力向上研修会 【小学校】第2回外国語活動指導力向上研修会 【小学校】第3回外国語活動指導力向上研修会</p>	
8月	<p>【高等学校】宮城県高等学校英語授業改善研修会 第3回 AIM 協議会 【中学校】第1回英語指導力向上研修会 【中学校】第2回英語指導力向上研修会 【中学校】第3回英語指導力向上研修会</p>	
9月	第4回 AIM 協議会	
10月		
11月	<p>第5回 AIM 協議会 【中学校】第2回英検 IBA 研修会</p>	
12月		
1月	<p>【高等学校】第1回英語担当教員指導力向上研修会 【高等学校】第2回英語担当教員指導力向上研修会 第6回 AIM 協議会 【小学校, 中学校】第2回小・中連携英語教育推進事業協議会</p>	
2月	<p>【高等学校】第3回英語担当教員指導力向上研修会 【高等学校】第3回連絡協議会 第7回 AIM 協議会 【小学校, 中学校】外国語指導助手の指導力等向上研修</p>	
3月		
<p>【その他の取組】 研修協力校（高校9校）における研修会及び講演会</p>		

目標管理書

都道府県等 教育委員会名	宮城県教育委員会
-----------------	----------

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①	求められる英語力を有する教師の割合 (%)	44.3	55	46.9	65	48.3	70	50.5	75	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合 (%)	25.3	30	28.2	35	30.4	40	28.1	50	
	③	学習到達目標の整備状況 設定 (%)	23.4	90	100	95	100	97	100	100	
		公表 (%)	9.4	50	26.5	75	35.5	90	31.9	100	
		達成状況の把握 (%)	13.3	30	36.7	60	36.6	85	44.3	100	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%)	46.2	60	45.8	75	50.4	85	49.1	90	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況									
		スピーキングテスト(回)									
		⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況 (%)	60.4			80	52	85	44.6	90
	⑧	英語担当教員に対する研修実施回数		10	16	10	16	10	15	10	
		研修受講者数		300	710	300	553	300	518	300	

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①	求められる英語力を有する教師の割合 (%)	23.5	25	15.3	30	26	40	26.6	50	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合 (%)	24	25	26	30	32	40	36.4	50	
	③	学習到達目標の整備状況 設定 (%)	12.1	60	13.6	80	94	100	100	100	
		公表 (%)	2.1	60	1.4	80	5	85	9	90	
		達成状況の把握 (%)	10	60	7	80	32	85	75.5	90	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%)	39.2	45	52.3	60	68	65	71.6	65	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況									
		スピーキングテスト(回)									
		ライティングテスト(回)									
		⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況 (%)	41.5			60	56	65	58.8	65
	⑧	英語担当教員に対する研修実施回数		3	3	5	5	5	6	5	
		研修受講者数		150	141	400	232	400	405	400	

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	⑦	相応の英語力を有する小学校教員の割合 (%)									
	⑧	小学校教員に対する研修実施回数		3	0	3	3	3	4	3	
		研修受講者数		150	0	150	132	150	363	150	